

令和六年一〇月五日（土）

組踊公演「手水の縁」第一部 琉球舞踊 各演目歌詞

一、「本嘉手久」

【踊り手】 島袋秀乃

〈本嘉手久節〉

深山うぐひすの 節や知らねども ヨー
梅の匂いしちど 春や知ゆる ヨー シュラ

〈出砂節〉

ンゾヨー 笠に散りとまる
アシタリヌヨー
春の花心 ンゾヨー
袖におみとまり アシタリヨー
里が御肝 ウネ カサムチ
ミヤラビ チュラサヌヨ

〈揚高祢久節〉

春に浮かされて
花のもと忍で サーサー
袖に匂移つち 戻る嬉れしや
袖に匂移つち 戻る嬉れしや

二、「しゅんどう」

【踊り手】多和田美幸、宮城尚子
仲程沙耶花、神里優子

〈しゅんどう節〉

一 シュンドー 諸屯長浜にヨー

アシユンドー 打ちやり引く波のヨー

アシユンドー 諸屯美童のヨー

アシユンドー 目笑れ齒口

ワタチャンドー アシエ ウキトタサ

二 シユンドー 諸屯女童のヨー

アシユンドー 雪の色の齒口ヨー

アシユンドー いつか夜の暮れてヨー

アシユンドー 御口吸はな

ワタチャンドー アシエ ウキトタサ

〈それかん節〉

一 油買うて給れ 簪も買うて給れ ウマサミ

捨て夫の見る前 身撫でしやべら スリカン

二 阿旦垣だいんす 御衣掛けて引きゆり ウマサミ
だいんす元びれや 手取て引きゆら スリカン

〈やれこのしい節〉

一 押し連れて互に 遊び欲しやあすが

むぢやれ匂ひ高き ヤリクヌ ウネ 別て遊ば

遊ぶき踊ゆき ヒヨウシヌ ヤリクヌシ ヤリクヌシ

二 よも面の美らさ どく頼て居るな

縁ど肌添よる ヤリクヌ ウネ 浮世知らね

遊ぶき踊ゆき ヒヨウシヌ ヤリクヌシ ヤリクヌシ

三、「加那よー」

【踊り手】 儀間美明

一 加那よー 面影の立てばヨー

加那よー 宿に居りらぬ

※ハルヨンゾヨー 加那よーシーシ

二 できやよ押し連れてヨー

加那よー 遊で忘ら ※

三 加那よー 貫木屋のあさぎヨー

加那よー 手巾布立てて ※

四 我が思る里にヨー

加那よー 情け呉らな ※

五 加那よー 情け呉るびけいヨー

加那よー 手巾呉てぬすが ※

六 ガマクくん締めるヨー

加那よー ミンサー呉らな

ハルヨンゾヨー イメーヌカージ

ハルヨーフニ

七 加那よー 遊で忘らんヨー

加那よー 踊て忘りらな ※

八 思ひまさて行きゆきヨー

加那よー ありが情け

ハルヨンゾヨー

デイヒヤングワ トウンケレ

四、「護身の舞」

【踊り手】阿嘉修

〈新勝連節〉

一 サーサー 勝連の島や

ハリガマタ 勝連の島や

イヤヨー 通いぶさあしがヨー ンゾヨー

二 サーサー 和仁屋間門の潮の

ハリガマタ 和仁屋間門の潮の

イヤヨー きやいあぐあぐでヨー ンゾヨー

三 サーサー 和仁屋間門の潮ぬ

ハリガマタ 和仁屋間門の潮ぬ

イヤヨー きやいあぐまわんヨー ンゾヨー

〈東里節〉

一 沈や伽羅とぶすヨー スリ

御座敷に出ちてヨー シュラヨー

二 踊る我が袖のヨー スリ

匂ぬしゆらしゆらさヨー シュラヨー

三 武士の身や空にヨー スリ

飛ぶ鳥の心ヨー シュラヨー

四 見ちみてん手にやヨー スリ

取り取りやならんヨー シュラヨー

五、「川平節」

【踊り手】又吉静枝、玉城千枝

- 一 無蔵が面影に 引かされて我んや
笠に顔隠ち 忍で行ちゆき スリ
- 二 笠に顔隠ち 忍で来やさ我んや
御門に出じみしより 思い語ら スリ
- 三 一期里連りて 遊ばていさしが
花の身の習や 自由やならぬ スリ
- 四 花の身の習の 自由ならんおきゆめ
繰り返し無蔵が 肝に染みり スリ
- 五 繰り返し返し 思りわんよう里前
我がやなやびらぬ 余所にいもり スリ
- 六 余所と語らりる 思いあてからや
何んち焦がりとて 我んや泣ちゆが スリ
- 七 何んで焦がりとて 泣ちみせが里前
節よ待ちみそり 後ぬ浮世 スリ
- 八 無蔵が言る如に 節待たなやしが
もしか先ならば 我んやちやすが スリ
- 九 もしか先ならば 里一人やなさぬ
連れて行かりゆる 手段あもの スリ
- 十 連れて行かゆいか とても此間居とて
共に計らやい 命捨ていら
- 十一 まじ待て 命捨てみせる 思いあてからや
御恥じかさあていん 御側なりら スリ
- 十二 天ぬ御助きか 神ぬ引合わせか
無蔵連りて宿に 戻るうりしや スリ